

公立甲賀病院



‘魅力’

をみなさんへ

アットホームでやさしさあふれるスタッフが
最新の医療をご提供します

システム
の魅力

人の
魅力

地域へ
つながる
魅力



公立甲賀病院 魅力発信経営ビジョン

＜魅力発信経営プロジェクトチーム＞
公立甲賀病院
日本医療経営機構
京都大学大学院医学研究科医療経済学分野

平成26年(2014年)9月29日



目次



院長挨拶、病院の理念・使命・患者さんの権利	3
公立甲賀病院の事業概要	4
魅力発信経営プロジェクト	5
人の魅力	6
システムの魅力	7
地域へつながる魅力	8
医療の実践	9
入院医療の安全とサービス／看護の魅力	10
医療サービスの特徴	11
地域医療の展開と事務部門	13
価値創造のストーリー	14
方針と目指す姿	15
組織の持続的発展の戦略マップ	16
患者さんの声＜病院の良いところ＞・あしがき	17
アクセスマップ	18



‘魅力ある病院への再スタート’

公立甲賀病院は昭和14年に設立された70数年の歴史と伝統を有する病院であります。しかし、建物の傷みが激しく手狭なこともあって、平成25年4月1日に水口中心部から郊外の松尾へ移転新築を行いました。従って、新病院には旧病院の面影を偲ぶ風情は何処にも無くなり、全く新しい病院としてスタートを切ったかのような錯覚に陥ったスタッフもあったのではないのでしょうか。しかしながら、場所と建物は変わっても、この70数年の間に先人の方々や我々が積み重ねてきた実績、醸成してきた風土というものは当然ながら引き継がれているものであります。この中には我々が誇りとすべきものが数多くあるはずですが、恐らくこのことが地域に十分伝わっていないのではないかと考えました。これから、この甲賀保健医療圏の中核としてさらに魅力ある病院となって行くには、今以上に地域の方々から愛され信頼されることが必要です。

そのためには、公立甲賀病院をもっとよく知っていただくことが大事ではないかと考えました。それも、難しい言葉を連ねるのではなく、分りやすい言葉でお伝えしたいと考えました。それによって我々が目指している医療も分っていただけたらと思います。そして、この魅力をさらに膨らませ、市民の方々から安心と信頼を得る公立甲賀病院へ進んで行きたいと考えています。



公立甲賀病院 院長 清水 和也

➤ 理念・使命・患者さんの権利

理念

私たちは、個人の人格を尊重し、思いやりの心をもって信頼される全人的医療を実践します。

使命

1. チーム医療を実践し、信頼される医療を提供します。
2. 救急医療を積極的に実践します。
3. 地域住民の健康づくりに取り組みます。
4. 早期発見・早期治療に取り組みます。
5. 次世代の医療人育成に努めます。

患者さんの権利

私たちは、個人の人格を尊重する医療サービスの提供に努めます。

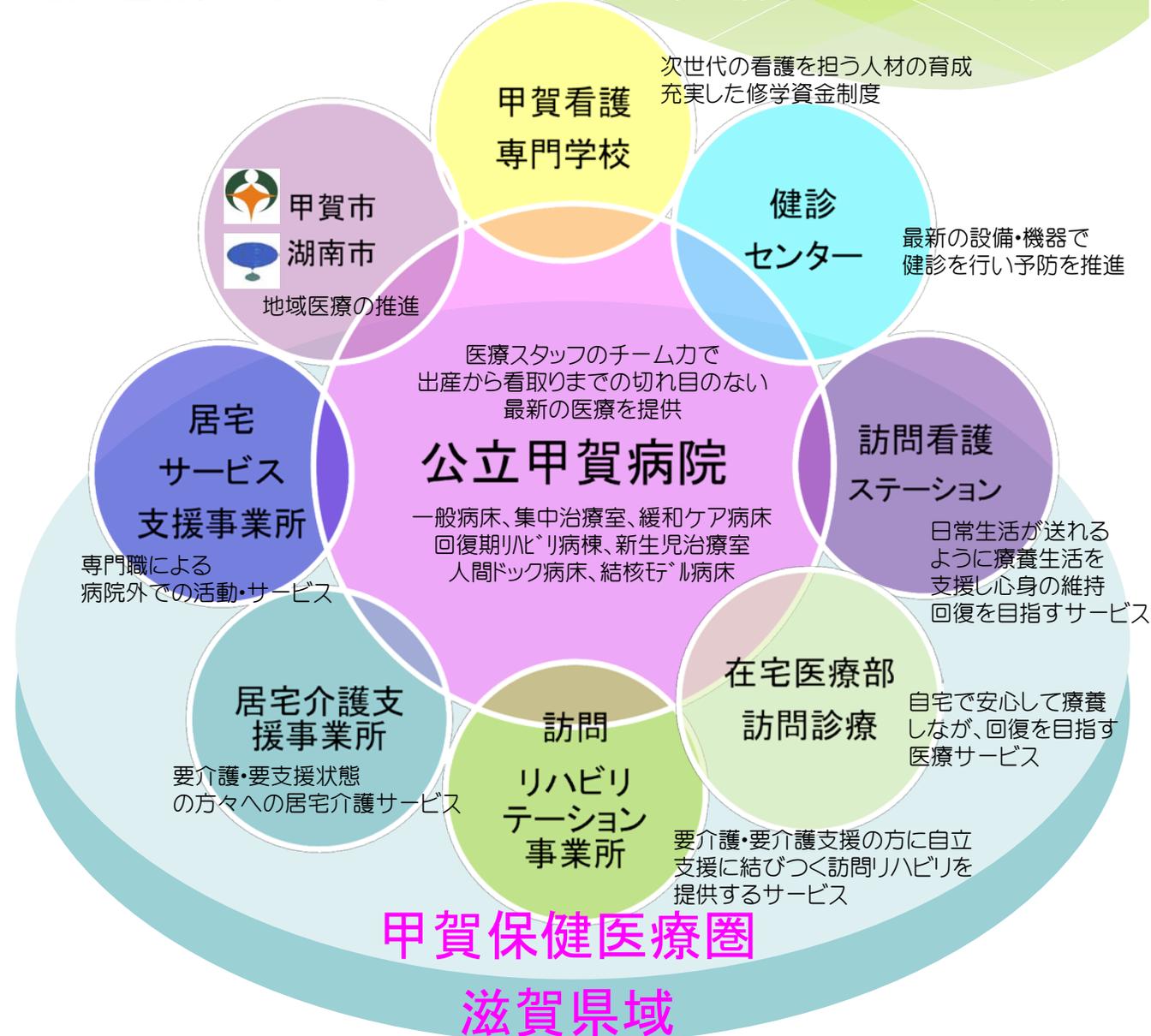
1. 適切で質の高い医療を受ける権利
2. 知る権利と十分な説明を受ける権利
3. 自分で選び、自分で決める権利
4. プライバシーが保護される権利
5. 他の医師等の意見(セカンドオピニオン)を求める権利

➤ 本紙の構成について

本紙は、当院の魅力を‘人の魅力’、‘システムの魅力’、‘地域へつながる魅力’に分類し、特に強調したい点を抽出し掲載しております。つづいて医療の実践では、当院が現在注力している救急、手術、がん診療についての特徴を紹介し、医療サービスの特徴や地域医療の展開では、当院ならびに付帯施設別の強みを紹介しております。

公立甲賀病院の事業概要

公立甲賀病院は、34の診療科と付帯事業とを統合し、24時間365日の救急体制のもと、予防事業、急性期医療、回復期医療、介護（在宅サービス）までトータルで医療介護を実践しています。



公立甲賀病院 施設概要

開設者	公立甲賀病院組合（甲賀市・湖南省）
医療管理者	院長 清水 和也
病床数	413床（一般病床409床、感染病床4床）
診療科 34診療科保有	内科、神経内科、循環器内科、腎臓内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、消化器内科、呼吸器内科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、肛門外科、乳腺外科、精神・心療内科、小児科、整形外科、リウマチ科、麻酔科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、産婦人科、耳鼻いんこう科、皮膚科、形成外科、放射線科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科、歯科、矯正歯科、歯科口腔外科
所在地／連絡先	〒528-0074 滋賀県甲賀市水口町松尾1256番地 / TEL : 0748-62-0234

魅力発信経営プロジェクト

▶ 魅力発信経営プロジェクト

公立甲賀病院では、数値で表しにくい病院組織の魅力と将来ビジョンを、患者さん、地域の皆さん、医療機関の皆さん、そして全スタッフで共有することを目的に、スタッフ及び外部機関と協働で魅力発信経営プロジェクトを進めて参りました。プロジェクトの中で発掘された当院の魅力を社会に発信すべく、本紙を作成致しました。

病院の魅力を社会へ発信 魅力発信経営プロジェクト



H26.2.13 グループ別検討会の様子



H26.1.31 グループ別検討会の様子

公立甲賀病院の魅力を

「人の魅力」「システムの魅力」「地域へつながる魅力」に分類しました
人の魅力

スタッフ自身に属する目に見えない魅力

例) 能力、ノウハウ、経験、想像力、モチベーション等

システムの魅力

組織に属するデータベース、機能や仕組み等の魅力

例) 組織の風土、医療体制、設備や機器、サービス、教育システム、安全管理の仕組み等

地域へつながる魅力

組織の対外関係や広義の顧客や地域との関係に付随した魅力

例) イメージやブランド、地域の皆さんや患者さんとの関わり、コミュニティ等

‘人の魅力’



スタッフ間の距離が近く、 スタッフが病院を愛している

- スタッフが公立甲賀病院を愛している
- スタッフ同士の仲が良く、やさしい人が集まった病院
(明るいスタッフが多い)

優秀な人材が集まる病院

- 大学や医療機関との人材交流で優秀な医師を確保している
- 専門医が多数活躍している
- 専門資格や認定資格を有する医療スタッフ（メディカルスタッフ）が多く活躍している

スタッフが力強い

- 多忙な職場環境に耐え、日々医療と真剣に向き合っている
- 学会発表も積極的に行っている
- まじめ、勤勉、新しい取り込みに前向きになれる

多職種の医療チームが 協働で医療サービスを提供

- 教育的で指導力のあるスタッフ
- 多数の医療チームがある
 - 栄養サポートチーム（NST）
 - がん化学療法チーム
 - 緩和ケアチーム
 - 院内感染対策チーム（ICT）
 - 褥瘡対策チーム
 - 災害時派遣医療チーム（DMAT）等



患者さんや地域住民との距離が 近いフレンドリーな病院

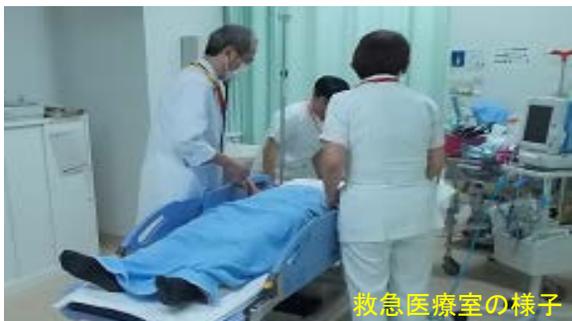
- 地元出身のスタッフが多く、病院の地域・郷土を愛している
- 気軽に話せる雰囲気がある



‘システムの魅力’

24時間365日の救急受入体制／ 予約診療の導入

- ・2次救急の積極的な受入体制がある
- ・経験豊富な医療チームがある
- ・予約制による外来診療で、よりスムーズな受診が可能である



救急医療室の様子

切れ目のない最先端の医療を 提供するシステムがある

- ・出産から看取りまで切れ目のない医療サービスの提供
- ・充実した健診（検診）サービスの提供
- ・訪問看護・訪問リハビリテーションがある
- ・安心な在宅生活へつなげるための退院後の連携支援システム
- ・多くの診療科で最先端医療の提供（専門医・認定看護師の医療チーム）
- ・通訳常駐で外国の方も安心（英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語に対応）



安心して診療を受けることができる(診療時の通訳の様子)

スタッフに向けた教育システムが 豊富である

- ・新入職員研修、職種別職位別研修、専門領域別勉強会を実施
- ・外部研修、学会参加助成制度もあり、多くのスタッフが積極的に参加しスキル向上をはかる仕組みがある

外来機能を集約化し、 検査移動がしやすい仕組みに

- ・採血、放射線等の検査機能が1階にまとめ、検査時の移動が楽になった。



採血室の様子

リニアック

充実した設備と最新の機器を保有

- ・最新の画像診断装置やリニアックを保有
- ・レストランはメニューが豊富でおいしいコンビニも充実（焼きたてパンが好評）
- ・本のひろばの充実（患者さん向け医療本）
- ・電子カルテシステムや広域ネットワークシステムの運用
- ・駐車場が広く、車での来院が便利に
- ・病室が広く療養しやすい環境がある



毎日焼きたてのパンを販売

メニュー豊富なレストラン



広い駐車場

病室に間仕切り家具を配置

アクセスが良い

- ・高速道路により大津市や草津市方面からのアクセスも非常によくなった
- ・駅からの直通コミュニティバスも利用できる

感染管理・安全管理システムを徹底している

- ・感染症の院内感染を防止するため感染管理認定看護師を配置し感染対策を実施している
- ・医療安全の責任者の配置と安全に関する情報管理や研修を行い、安心して安全な医療を提供している

‘地域へつながる魅力’

地域住民対象の
健康講座



「各病棟の案内表示」
西病棟 ササコリ 東病棟 サツキ
(甲賀市の花) (湖南市の花)



症例検討会の様子

伝統と地域性を重んじた 病院運営

- 地域住民に支えられ75年以上の歴史
- 甲賀保健医療圏唯一の中核的な病院

多職種協働による医療提供

- 総合的な病院のため、合併症のある方でもスムーズな医療提供ができる
- 患者さんの悩みや相談に対し多職種が連携し早期に対応する
- 電子カルテシステムや検査機器との連携により、効率的な医療提供ができています
- 退院後の生活について退院前に多職種協働のカンファレンスを実施している

多職種協働のカンファレンス



患者さんとスタッフの 親密な関係がある

- 地域住民に向けた健康講座を頻繁に実施し多くの方にご参加頂いている
- 地域の皆さんと交流する機会を多く設けている
- 職員には地元の間人が多い、患者さんとも顔なじみが多い



大学病院・地域の診療所等との 連携が強固である

- 大学病院や診療所との強固な連携体制があり、スムーズな紹介が可能
- 病院施設を研究会や研修会などのために院外へ向け積極的に開放している

若手スタッフ考案の「さくら祭」 地域の皆さんが大勢集まり大盛況



H26.4.5 さくら祭の様子



救急症例検討会の様子
より安心な救急体制の構築に向けて

‘医療の実践’

救急

- 当院の医師に、外部の医師（小児科や内科）も加わる協力体制で、24時間365日充実した救急医療を提供している（ヘリポートも保有）
- 専門スタッフが充実し救急受入件数も増加
- 妊娠34週以上、児の推定体重1800g以上のハイリスク症例受入（産婦人科小児科連携）
- 歯科・口腔外科も24時間対応
- 多くの診療科で持続的な救急受入実績
救急車搬送受入件数2,992件（両市の75%）



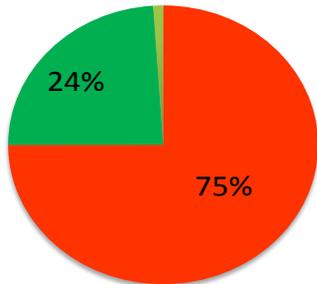
DMAT車両を整備

手術

- 高度な技術を要する手術を実施（年間2,700件以上の手術を実施）
- 痛みの少ない腹腔鏡手術も近年増加している
- 新病院に移ってから手術件数が飛躍的に伸び、様々な手術に対応できるよう最新の手術器具や映像機器等が整っている



甲賀広域行政組合消防本部の救急車搬送受入割合
1%（平成25年1-12月）

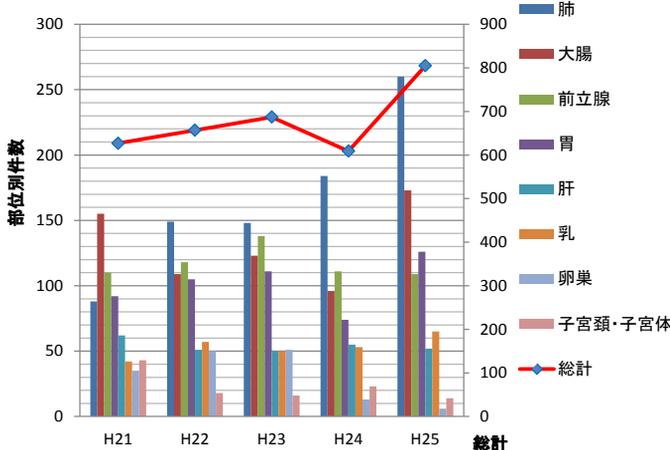


- 公立甲賀病院
- その他救急告知の3病院
- その他の3病院

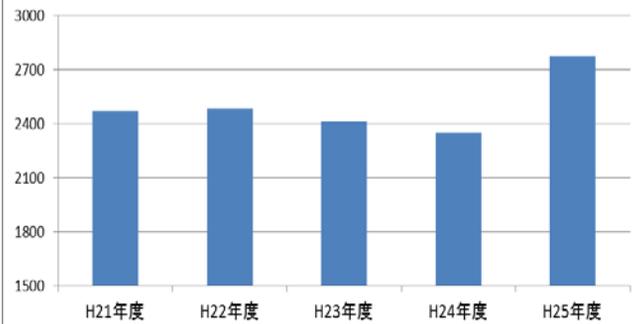
がん診療

- 地域がん診療連携拠点病院として質の高い診療とチーム医療を実践
- 外来化学療法10ベット保有で日帰り可能
- がん予防講座の開催（無料で出前講座も実施）
- 常勤の放射線治療専門医（経験年数20年以上）が放射線治療を担当
- 県下でも名高いがん患者サロン「ゆかい（癒会）こうが」がある

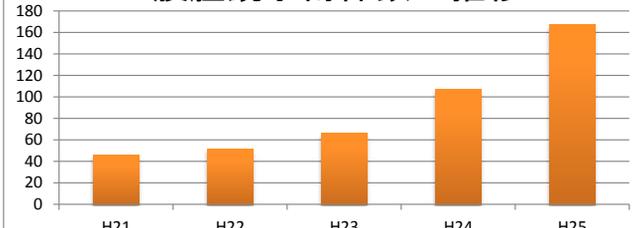
悪性腫瘍部位別実績の推移



手術件数の推移



腹腔鏡手術件数の推移



‘入院医療の安全とサービス’

質の向上に向けた取り組み

- 多職種連携で術後合併症の予防に取り組んでいる
- 手術後の早期離床を目指し、患者さんと目標を共有
- 日々業務改善に取り組んでいる

お食事と栄養管理

- 地産地消への取り組み
信楽焼きの食器、近江米近江牛を提供
- 選択メニューの実施
- 緩和ケア病棟の個別要望対応
- 四季折々の行事食
- 工夫を凝らしたメッセージカード
- 栄養管理介入・病棟訪問100%実施
- 栄養サポートチームによる治療の効率化
- 勉強会へ積極的に参加し、
新調理法を導入



入院医療

- 4人室には間仕切り家具を完備し準個室になっている
- 病状に応じた療養環境が充実
- ケアサポートプラン(有料)も充実し、入院時の必要品を揃えることができる
- PDAによる患者認証装置導入し、安心安全な医療に努めている



PDAは、患者氏名・指示内容・採血容器・薬剤の確認をする携帯情報端末です。

‘看護の魅力’

看護部の人材育成

- 「甲賀圏域新人看護職員研修」が実践され、圏域内の他施設の新人看護師の教育も合同で実施
- 充実した研修内容で、リフレッシュ目的のリゾートホテルでの宿泊研修もある
- 指導者の育成・教育にも力を入れている「クリニカルラダー体制」が整備され、自分の位置を確認しながら主体的に学ぶ看護師が育成できている
- 10年後の医療人を育てるため、5ヶ所の看護学校や中学生、高校生の職業体験を多く受けいれている

看護部は、看護専門職として自立して考え行動できる看護師の育成に取り組んでおり、認定看護師を含む多くの看護スタッフが最新の知識で看護ケアを行っています。地域社会の医療の変化に対応して、病棟、外来、在宅、健診などで、患者さんの症状や環境に合った看護ケアを実践しています。

また、新たな看護を創造するための教育システムとして、クリニカルラダーを採用し、看護師自身が自分の目標を設定し、看護師としてのやりがいや充実感を持ちながら、生き生きと仕事ができるようにサポートをしています。



看護部長 芳尾 邦子



職場体験の様子

看護部の魅力 愛・和・輪

- 一人一人が自分の目標を持っている
- 部門間の協力体制ができている
- 教育体制が充実している
- 認定看護師、糖尿病療養指導士、呼吸療法士などの資格者がいる
- スペシャリスト研修へ積極的に参加できるシステムがある

‘医療サービスの特徴’

▶ 各部門の特徴をご紹介します

糖尿病・内分泌内科センター

持続血糖モニター(CGM)、持続皮下インスリン注射療法(CSII)など、最先端の治療・検査にも対応が可能である。

循環器内科・循環器病センター

年間約200例の心臓CTを施行し、急性心筋梗塞等の急性冠症候群では、緊急カテーテル治療を大動脈バルーンパンピング、経皮的心肺補助装置等実施している

消化器内科・消化器センター

救急体制下において、消化管緊急内視鏡検査・処置に対応できる。

紹介件数 (H23年度792件、H24年度810件、H25年度1,045件)

人工透析・腎臓内科

腎臓内科医師が人工透析室に常駐し、オンラインHDFや5時間透析等、生命予後や透析の質を高める努力をしている

緩和ケア内科・病棟

- ・がん患者さんの苦痛の緩和を優先するため、症状緩和を効果的に行っている
- ・がん患者さんだけでなく、ご家族の方のケアや支援にも力を入れている

神経内科

脳卒中(急性期血栓溶解療法)をはじめ、パーキンソン病・認知症などの変性疾患等広範な神経疾患にも対応している

血液内科

無菌室を確保し、より安全に化学療法を受けて頂くことが可能となり、治療状況に応じて、迅速に部屋移動を行い、無菌室稼働率は90%を達成している

組織文化向上委員会

病院組織の活性化と、より良い医療サービス提供のための方策の検討を、多職種協働で行っております。

スタッフ一同は、各部門の専門性を発揮しながら、各々の強みをいっそう強化するため、チーム医療の実践を重視しています。

地域の住民、患者さんのご要望に、より着実に対応できるよう、組織一丸となって、向上に向けた取り組みを行ってまいります。

組織文化向上委員会委員長
院長代行 沖野 孝
スタッフ一同



小児科

食物アレルギー患者さんに対して、食物経口負荷試験を実施している数少ない病院のひとつ

産婦人科

がん治療専門医(がん治療学会)、婦人科腫瘍専門医(婦人科腫瘍学会)が悪性腫瘍の治療を担当し広汎子宮全摘術などの高度な技術を要する手術も実施している

外科

手術・がん化学療法・腹部救急治療を三本柱と考え、他の診療科との連携を密にとり、様々な合併症を抱えた手術も安全に行うことができる。縮小手術や低侵襲手術、乳がんに対する乳房温存療法やセンチネルリンパ節生検、消化器疾患に対する腹腔鏡下手術に力を入れている

整形外科

人工膝関節、人工股関節の手術件数は年間50～60件。頸椎、胸椎、腰椎すべてに対応。関節リウマチ関節リウマチの治療にも力を入れている

呼吸器外科

肺がんの手術法として、患者さんに対する痛みや侵襲の少ない胸腔鏡下手術を実施している

脳神経外科

- ・頭痛外来を開設し頭痛専門医が対応
- ・血管内手術専門医による低侵襲な手術が可能



‘医療サービスの特徴’

▶ 各部門の特徴をご紹介します

泌尿器科

甲賀保健医療圏において、泌尿器科入院できる唯一の病院
前立腺肥大症に対する内視鏡手術(経尿道的前立腺切除術件数)は、全国レベルである

放射線科

リニアック棟に放射線治療の受付・外来診察室・操作室・放射線治療計画室・リニアック室のすべてが配置されており、専門医、看護師・診療放射線技師が密に連携し患者さん・ご家族が安心して頂ける診察・看護・治療を提供している



耳鼻いんこう科

- ・特に鼻の手術に力を入れている
- ・嚙下障害の診断・治療に特色を持っている

眼科

最新の網膜硝子体手術装置・白内障手術装置を備え、安全に的確な手術を行うことができる

皮膚科

美容皮膚科・レーザー指導専門医の認定を受けている(全国に約40人)

ICU(集中治療室)

高度医療機器や設備を整備し、院内の重症患者・手術後患者の受け入れを24時間体制で行っている

歯科・歯科保健センター

一般歯科・口腔外科・訪問診療に至るまで、幅広いニーズに応えた歯科治療やケアを提供している
24時間コール体制。変形あごの矯正が得意である

薬剤部

がん・麻薬・感染・栄養・糖尿病など薬物療法の専門スタッフが在籍し、医療チームのメンバーとして、服薬指導、薬剤管理等を行っている

臨床検査課

- ・認定検査技師が病理、生化学、血液、心臓超音波検査の各専門分野で活躍している
 - ・精度管理された検査データを迅速に報告できる
- 日本医師会精度管理(平成25年度93.5点A評価)

リハビリテーション部門

脳・骨・関節の病気や怪我、呼吸器の病気、がん、心臓、代謝の病気など幅広い病気の方に対応した治療が提供できる

臨床工学課

臨床工学技士により、手術や治療で使う機器を24時間365日体制で管理している

医事課

手話のできるスタッフや医療通訳者(ポルトガル語・スペイン語・中国語)がおり、サービスの質向上と請求管理業務を担っている

看護学校

チューター制を取り入れ学生ひとり一人きめ細やかな指導を行い、現場の看護を学び、地域に貢献できる力を育てている

保育所(ひまわり園)

公立甲賀病院の子育て中のスタッフが、安心して業務に専念出来るように支援している(24時間保育の体制)

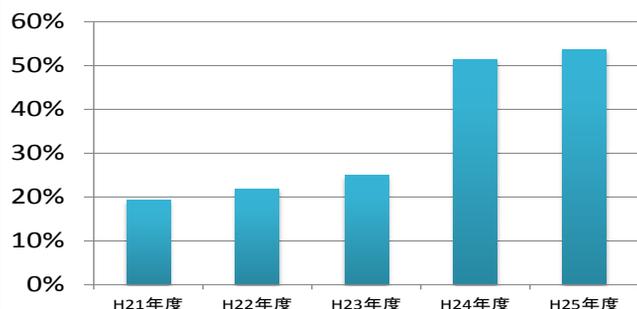


元気いっぱいの子供たち
保育所の運動会の様子

‘地域医療の展開’

- ・近隣医療機関や大学病院と連携しながら診療を実践している。
- ・大学病院をはじめ病院や診療所と連携を強化しているため、50%以上の紹介率となっている。逆紹介率も増加している。

紹介率の推移



訪問リハビリ

脳血管疾患・骨関節疾患・神経難病・呼吸器疾患・がんなど幅広い疾患に対応し、他事業所と連携を深め情報を共有することで、適切なサービスを提供している

がん相談支援センター

がん専門の相談員が、がん患者さんやご家族のがんに関する質問や相談にお答えしており、いつも笑顔をもっとサポートさせて頂いている

健診センター

センター内で、全ての検査を受けることができ、一泊ドック、日帰りドック、脳ドック、生活習慣病予防健診、健康診断、特定健診等を受付けている

地域医療連携室

- ・『在宅から病院へ～そして、病院から在宅へ』と地域に密着した、きめ細やかな医療・介護の連携(地域連携)を実践します
- ・100人おられたら100通りの退院支援で、入院中から退院後の療養生活を支援している

在宅医療室

在宅療養を希望されるがんの患者さんや、医療依存度の高い患者さんの訪問診療を積極的に引き受け、院内の他部門と連携し、安全、安楽な在宅生活をサポートしている

訪問看護ステーション

医療依存度の高い利用者、難病、小児等の訪問看護を受け入れ、リハビリ、ケアマネ、往診医との連携等包括的なサービス提供ができる(24時間コール体制)

居宅介護支援事業所

看護と介護の一体化により、残存能力を活かし「やりたいこと」の自己実現や「明日家に帰りたい!」との願いに応えるため、退院調整と移行期支援、安心できる在宅療養支援している

‘事務部門’

経営企画課

現状や課題の情報収集・分析、病院原価管理手法構築等を実施し、病院スタッフの経営意識維持・向上に努めている

施設管理課

快適な療養環境の提供、外来患者さん用の十分な駐車スペースの確保等病院内の環境整備に努めている

用度課

調達業務を独立させ、材料・物品等を適切かつスピーディーに提供し、コスト管理も徹底している

システム管理部

情報化社会の動向を踏まえながら院内の情報システムを管理し、安全な情報通信の環境を整備し発展させている

総務課

他病院とのネットワーク構築等により情報収集、業務改善に積極的に取り組み、業務の質の向上と効率化に努めている

診療支援課

診療情報管理士や各種研修を受けたスタッフが、診療録管理や医師支援、図書室コーナーの環境整備を担っている

‘価値創造のストーリー’ (創設から現在)



創設期	昭和14年6月	「保証責任江南医療購買販売利用組合連合会 甲賀病院」 開院(病床70床) (水口町外24カ町村の産業組合病院として設立)
	昭和16年4月	看護婦学校併設 (設立後2年以内に看護師養成開始)
	昭和31年4月	結核病棟隔離病棟増築により増床 (160床)
	昭和35年10月	「甲賀郡国民健康保険病院組合 甲賀病院」となる
拡大期	昭和39年3月～	本館病棟 3F・4F増床し240床となる 院内保育所を開設 (県内で最も早い時期に24時間院内保育所を開設)
	昭和50年6月～	中央館増築 (食堂、RI室、検査室、産婦人科病棟) し、305床となる C T (コンピューター断層撮影装置)の導入
	昭和56年3月～	西館新築 (放射線診断治療室、救急室、小児病棟、整形外科病棟、中央手術室) 「公立甲賀病院」に名称変更 (昭和56年4月) 全国自治体病院協議会より ‘優良病院’として表彰される
	平成元年1月～	D病棟・給食棟新築 病床数478床 (一般438・結核25・伝染15) 退院患者さんへ「おめでとう用紙」を作成 (退院療養計画書のさきがけとなる) MRI (磁気共鳴イメージング装置)の導入
内部変革期	平成3年～	訪問看護事業を開始 (当時県内でも2か所ほどこしか実施していない) 当初から ‘地域医療を重視’ していた 富永芳徳院長 (当時) 就任 糖尿病患者会発足、母乳外来開設 (現在の助産師外来)、院内看護マニュアル整備
	平成11年～	企画課を新設し、看護専門学校整備事業や移転新築整備事業に着手 歯科保健センター開設、居宅介護支援事業所開設、新型マルチスライスC T導入 D2病棟を療養型病床へ転換 (平成12年介護保険制度スタート)、病歴管理室稼働 富永芳徳院長 第29回医療功労賞受賞 (平成12年) 富永芳徳院長 全国国民健康保険診療施設協議会会長就任 (平成14年4月)
	平成15年～	訪問看護ステーション開設 (訪問看護は元年からスタートしそれが礎となる) 医療安全管理室開設 (安全の確保とケアの質向上に向けて) 地域医療連携係開設 (早い時期からの地域医療への取り組みが形となった) 臨床研修病院に指定される (平成15年4月) 日本赤十字社より金色有功賞贈呈 (平成16年8月) (献血会場の運営が評価された) スタッフの積極的な活動が高く評価されモチベーションアップにつながった
	平成17年4月～	日本医療機能評価Ver4.0 認定 (受審に向けスタッフ一丸で取り組み認定を受けたことで各々の自信につながっている)、健診棟オープン (予防医療の充実を図る)
組織改革期	平成20年1月～	がん診療連携拠点病院指定 (スタッフの意識変革と診療の充実に大きく寄与) 災害拠点病院指定、京セラ式病院原価管理手法導入 日本医療機能評価Ver6.0 認定 (平成22年4月) 公立甲賀病院DMAT派遣 (東日本大震災) がん在宅事例検討会開始、D P C 導入、電子カルテシステム導入
	平成25年4月～	清水和也院長就任、富永芳徳名誉院長称号授与 公立甲賀病院 新病院移転 (水口町鹿深→水口町松尾) (新築移転に伴い患者さん、地域住民、スタッフを取り巻く環境が大きく改善された) (新築移転の際には全スタッフ一丸となり、底力が発揮され成功した) 魅力発信経営プロジェクト実施

‘方針と目指す姿’

公立甲賀病院は、伝統と地域性を重んじた病院運営のもと、地域の医療の質を確保し、信頼される病院となるよう、将来に向けて持続的な発展を目指します。

10年後

- ・この地域の中核的な病院として、医療・看護等の質を高め、さらに信頼される病院となる
- ・超高齢社会を支える地域包括ケアシステムの確立
- ・甲賀保健医療圏において、最先端の医療機関として機能しつつ、認知症や慢性疾患を抱えていても、安心して地域で生活できる仕組みづくりに協力する医療機関となる
- ・公立甲賀病院が地域医療のハブ(拠点)となる

3年後

- ・院内でのチーム医療にとどまらず、地域とのチーム医療の実践を充実させる
- ・病院医師と診療所医師が共同主治医となって、入院医療や在宅医療を提供できるようにする
- ・病院で働くスタッフが目標を持って地域住民の皆さんへ貢献できるための環境づくり(育成や活躍できる場)を充実させる

現在

- ・‘甲賀流三方よし’「**スタッフよし**、**患者さんよし**、**地域よし**」
- ・医療・看護等の質をさらに強化し、安心で安全なサービスを提供する
- ・地域包括的医療提供(急性期から在宅医療まで)を実践する
- ・地域の医療機関(病院や診療所)との連携をさらに強化する
- ・全員参加型の病院運営を強化する
- ・全スタッフが病院の広告塔となり、公立甲賀病院の魅力を発信する
- ・人材確保と人材の育成をさらに強化する

組織の持続的発展の戦略マップ

魅力・活力・実力を備え、地域医療の質の向上と持続的な病院運営の構築

‘公立甲賀病院の実践’

【新たなことへの挑戦】

- ・何事も先陣を切ってやる風土
- 【医療の質・レベルの向上に向けた取り組み】
- ・救急・入院医療の充実(手術増加、紹介率向上)
- ・在宅による医療・看護・介護・リハビリの充実
- ・多職種の融和を図る取り組み
- 【地域住民・医療機関等との関係強化】
- ・地域住民・患者さん向け講座(健康講座等)の開催
- ・地域イベントの開催(看護の日イベント・さくら祭等)
- ・病院内の設備の開放・共同利用(講座、医療機器、開放型病床)
- ・協働(共同)での診療・研修の実施
- ・出前講座の実施(住民、医療・介護・福祉従業者向け)

【人を育て成長させる】

- ・論文発表
- ・スタッフの資格取得の推進
- ・考えて行動できるスタッフの教育
- ・任意の勉強会の実施(課長塾等)
- 【患者満足度を向上させる】
- ・接遇改善
- ・外来Nsスタッフコーナー、コンシェルジュスタッフの導入
- ・通訳専門スタッフによる外国人の安心受入
- 【職務満足度を向上させる】
- ・スタッフのやりがいを高める職場づくり
- ・ワークライフバランスの仕組みづくり

‘システムの魅力’

- ・24時間365日の救急受入体制
- ・予約診療の導入
- ・在宅での生活を基本に切れ目のない医療を提供するシステム
- ・最新の設備と機器を保有
- ・外来機能を集約化し、検査移動がしやすい
- ・感染制御・安全管理システムが徹底
- ・スタッフに向けた教育システムが豊富
- ・高速道路がありアクセスが良い

‘地域へつながる魅力’

- ・伝統と地域性を重んじた病院運営
- ・患者さんとスタッフの親密な関係がある
- ・多職種協働による医療提供
- ・大学病院や地域の診療所等との連携が強固

‘人の魅力’

- ・スタッフ間の距離が近く、スタッフが病院を愛している
- ・医療チームとして多職種協働で医療サービスを提供
- ・優秀な人材が集まる
- ・病院スタッフが力強い
- ・フレンドリーな病院(住民や患者さんとの距離が近い)

公立甲賀病院の魅力

運営課題

- ・組織の活性化
- ・指揮命令系統の統一
- ・良いところをアピールできていない
- ・マネジメント力の強化
- ・人員の増強
- ・人材の定着化
- ・24時間365日のサービス提供を支える医療者の負担軽減
- ・多職種の院内スタッフ連携・協力
- ・院外連携(医療・介護等)
- ・地域住民・患者さんとの交流

患者さんの声 <病院の良いところ>

平成25年度公立甲賀病院患者満足度調査 自由記載コメントより抜粋

- 清潔・親切、医師、看護師、スタッフの対応がすばやく、良かった。
- どのスタッフの方も親切で気持ちの良い言葉使いで有難いです。
- 廊下ですれちがった時、自ら挨拶して下さるスタッフさんが多いのにびっくりします。とても気持ちの良いものです。知らない人にも挨拶が一番ですネ。
- いつも笑顔で対応してくれて、うれしかったです。がんばって下さい。
- チーム医療がきちりで行えているように思った。
- 看護師が患者の病状だけでなく個性もふまえて上手に対応している。
- 気持ち良い病院でした。親切に対応して頂きうれしかったです。ありがとうございました。
- 働いておられる方がやさしくて、とても良くて誠心誠意やってくれるので感じがよい。
- 先生方はじめ医療関係者の方たちが良く患者のお話を聞いているところに出会います。いつまでもそういう医療機関でありますように。

あしがき ～魅力発信経営プロジェクトについて～

公立甲賀病院魅力発信経営プロジェクトは、数値で表しにくい病院組織の隠れた魅力と将来ビジョンを、患者様、地域の皆様、医療機関の皆様、そして全スタッフで共有することを目的に、公立甲賀病院の経営幹部ならびにスタッフ有志の方々の多大なるご協力のもと、実施して参りました。

本紙を通じて、公立甲賀病院の人の魅力、システムの魅力、地域へつなげる魅力を共有し、甲賀保健医療圏の医療の持続的な発展に寄与できればと考えております。

本プロジェクトの推進において、多大なるご協力を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

病院の魅力を社会へ発信

魅力発信経営プロジェクト



特定非営利活動法人日本医療経営機構
魅力発信経営プロジェクトチーム
理事 今中 雄一
主任研究員 田中 将之
客員研究員 大野 達也

【本紙に関するお問い合わせ先】
特定非営利活動法人日本医療経営機構
調査改善促進事業部
Tel:075-708-6854
E-mail:office@iryo-keiei.org
Web: <http://www.iryoy-keiei.org/>

公立甲賀病院へのアクセス

【お車でのアクセス】



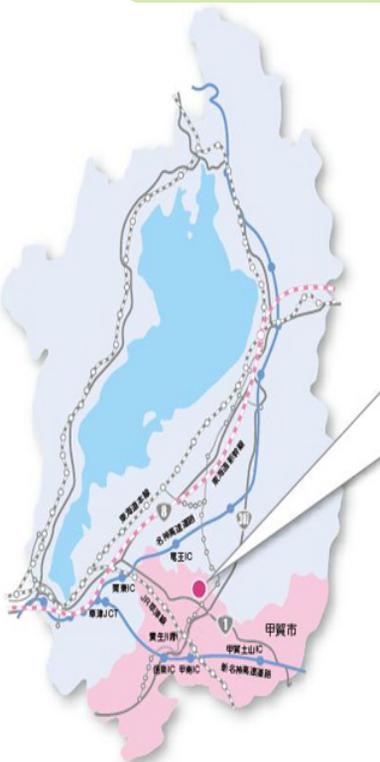
草津、大津、京都方面からの車で
のアクセスも便利に！

【公共交通機関のアクセス】



近隣の方や貴生川駅からは、
コミュニティバスのご利用が便利！

公立甲賀病院へのアクセス Access Map



所在地 住所	〒528-0074 滋賀県甲賀市水口町松尾1256番地
連絡先	TEL: 0748-62-0234 FAX: 0748-63-0588
ホームページ	http://www.kohka-hp.or.jp/



信楽焼の陶板(診療棟2階 講堂前)



寄贈品 絵画「チェロコンポジション」
(診療棟3階 廊下)